

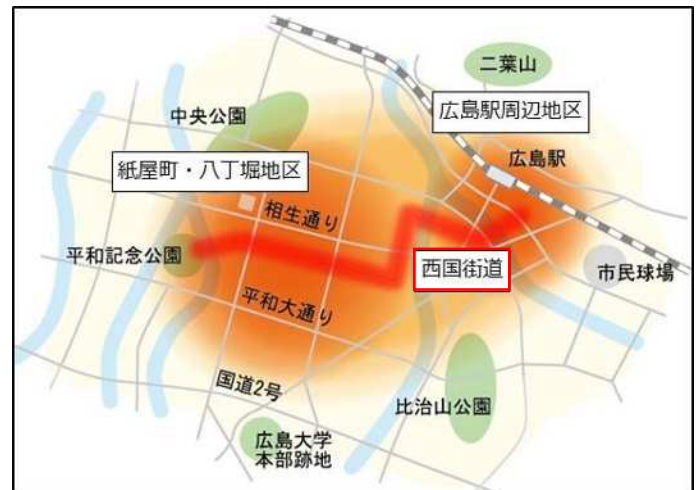
I 背景、目的など

1 背景

【楕円形の都心づくり】

- 本市では、**広島駅周辺地区**と**紙屋町・八丁堀地区**を都心の東西の「核」と位置付け、それぞれが活力とにぎわいのエンジンをもち、相互に刺激し高め合うような「**楕円形の都心づくり**」を進めています。

今後は**2つの核の連携を強化し、両地区のにぎわいを都心全体に広げていくこと**が求められています。



【観光客の行動】

- **平和記念公園を訪れた観光客のほとんどが原爆ドームを訪れています。**しかし、**本通・八丁堀周辺を訪れる割合は低くなっています。**

【西国街道の歴史】

- かつて江戸時代には、現在の猿猴橋から京橋、仏だん通り、本通、元安橋を結ぶ位置に西国街道が通っていました。**西国街道は、広島城下を東西に貫き、沿道には商家が立ち並び、最もにぎわいのある通り**でした。そのにぎわいは昭和初期まで続いていましたが、戦後の復興事業などにより周辺に広い道路が整備されるにつれて人通りが少なくなっていました。

【地域のコミュニティ活動】

- 従来は、**町内会や商店街などが祭りなど地域のまちづくりの主な担い手の役割**を担ってきました。しかし、**少子・高齢化の進展や商店街の厳しい経営環境が続く中で、コミュニティ意識の希薄化、地域活動におけるリーダーの高齢化や不足、参加者の減少・固定化などの課題が顕在化**しています。

【西国街道をテーマとした新たな取組】

- こうした中において、再開発が進む広島駅周辺地区のにぎわいを都心に誘導するため、**西国街道をキーワードとしたにぎわいづくりに向けた新たな取組**が、地域住民や地元企業等によって始められています。

2 目的

- **かつて城下町が目抜き通りであった西国街道を、市民と協働で、楕円形の都心における東西の核である「広島駅周辺地区」と「紙屋町・八丁堀地区」をつなぐ「新たなにぎわいの軸」として復活させることにより、両地区のにぎわいを都心全体に広げていくことを目的とします。**

3 検討の視点

- 以下の**三つの視点**から検討を行います。

視点1 歴史をつなぐ

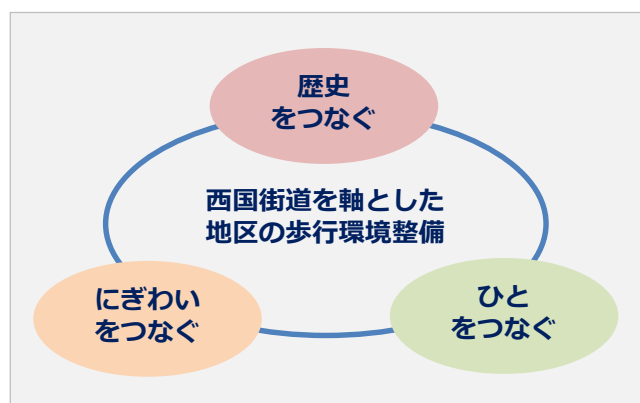
繁栄した過去の歴史を現在、そして未来へとつなぐ

視点2 にぎわいをつなぐ

楕円形の都心の東西の核をつなぎ、にぎわいを広げる

視点3 ひとをつなぐ

西国街道のにぎわいづくりに向けた取組を通じて、地域の人と人をつなぐ



4 対象区域

- **かつての西国街道のうち、広島駅から平和記念公園の間を対象**とします。
- また、この間の西国街道を軸として、周辺の歴史的・文化的資源や観光資源などへの経路についても、にぎわいづくりの観点から検討の対象とします。



II 現状及び課題

現地や既往資料の調査等を基に、三つの視点から当地区の現状及び課題を整理すると、以下のとおりです。

視点	現状・課題	
1 歴史をつなぐ	現状	○西国街道に関する歴史や成り立ちなどの情報提供が不十分である。 ○駅前通りから京橋通り、京橋通りから堀川町へなど経路の案内が無く、西国街道がどの位置を通っていたか分からない。
	課題	○観光客や地域住民に、まずは西国街道の歴史や周辺の資源などを知ってもらう必要がある。 ○発着点となる広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区において、歴史や観光資源についての情報提供や案内サインの設置など、案内を充実させる必要がある。 ○経路の案内サインの設置など歩行者を分かりやすく案内することが必要である。
2 にぎわいをつなぐ	現状	○広島駅から平和記念公園、原爆ドームなど市内での目的地への移動は、路面電車や路線バスを利用する割合が高いが、一方で外国人観光客の歩く姿も見られる。 ○広島駅から紙屋町・八丁堀地区へは、約1.5kmと近い距離であるにもかかわらず、どのように歩いて行けばいいのか分からない。 ○西国街道には、一部に歩道が設置されていない区間がある。 ○西国街道には、平和記念公園や河岸緑地等を除いて、座って休める場所がない。 ○戦後の復興事業などにより周辺の道路整備が進むにつれて、以前のような人通りが見られなくなった通りがある。
	課題	○広島駅から紙屋町・八丁堀地区の間を歩いてもらうためには、途中の程よい距離に眺めの良いスポットなど目的地が必要である。 ○地域の観光資源や特色を活用した地区の取組や休憩場所の設置など、途中の経路そのものに魅力をつくる必要がある。 ○統一感のある舗装や街路灯の整備などにより、西国街道としてつながっていることを感じることが出来る演出が必要である。
3 ひとをつなぐ	現状	○地域の古い話を知る人が少なくなり、まちの記憶を伝承することが難しくなっている。 ○全市的に町内会加入率が低下傾向にあるなど、地域のコミュニティ活動への関心の低下が見られる。 ○商店街や町内会等によるイベントなど組織的な活動が行われていない通りでは、にぎわいが見られない。
	課題	○にぎわいづくりの担い手となる地域コミュニティの再生・活性化が必要である。 ○いくつかの団体による個別の取組では効果が限定的であることから、地域団体相互の連携や情報共有を図る仕組みにより、にぎわいづくりの相乗効果を高める必要がある。

現状及び課題（視点1：歴史をつなぐ）

【課題】

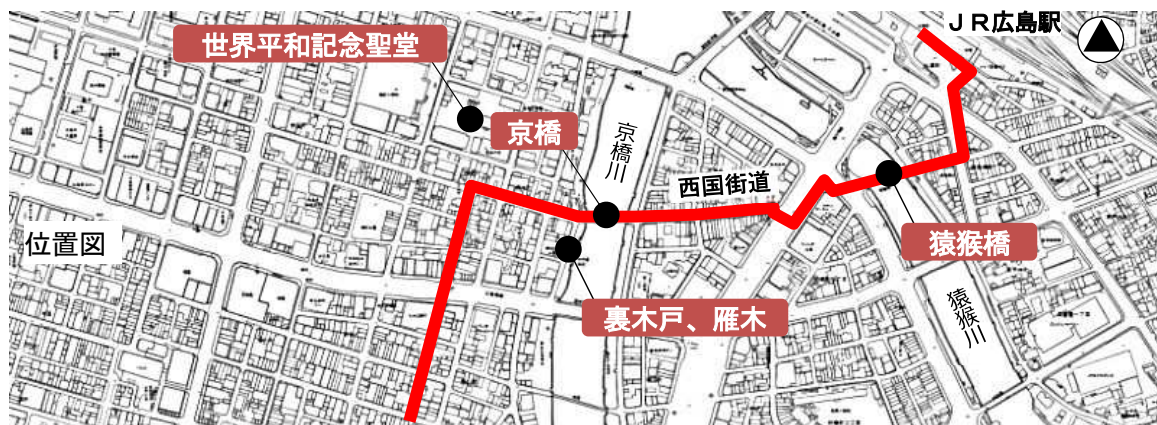
- ・観光客や地域住民に、まずは西国街道の歴史や周辺の資源などを知ってもらう必要がある。
- ・発着点となる広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区において、歴史や観光資源についての情報提供や案内サインの設置など、案内を充実させる必要がある。
- ・経路の案内サインの設置など歩行者を分かりやすく案内することが必要である。



広島城下から京への出発地として名付けられた「京橋」



京橋川河岸に残る「裏木戸」や「雁木」



西国街道周辺に残る歴史的資源の例

現状及び課題（視点２：にぎわいをつなぐ）

【課題】

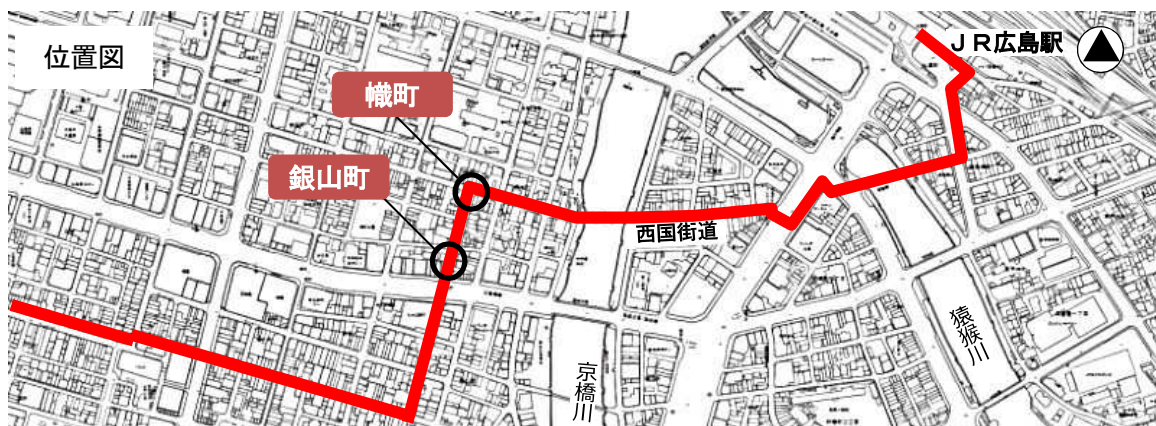
- ・広島駅から紙屋町・八丁堀地区の間を歩いてもらうためには、**途中の程よい距離に眺めの良いスポットなど目的地が必要である。**
- ・地域の観光資源や特色を活用した地区の取組や休憩場所の設置など、**途中の経路そのものに魅力をつくる必要がある。**
- ・統一感のある舗装や街路灯の整備などにより、**西国街道としてつながっていることを感じる**ことができる演出が必要である。



街道の曲り角に西国街道を示す道標があるが目立たない。（幟町）



西国街道に関する案内がなく、街道を意識した演出もされていない。（銀山町）



西国街道が通っていた通りの様子



かつてにぎわっていた「京橋通り」
（昭和30年代初頭）



現在の「京橋通り」

かつてにぎわっていた西国街道の様子

現状及び課題（視点２：にぎわいをつなぐ）



平和記念公園と本通を結ぶ区間にもかかわらず安全で快適な歩行空間が確保されていない。（大手町一丁目）



歩道が確保できておらず、人通りも少ない。（幟町）



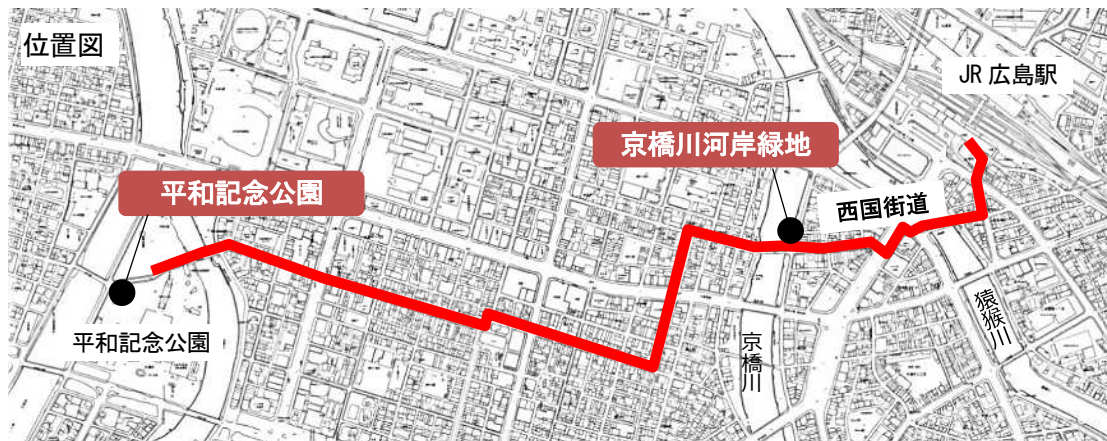
歩道等が未整備の区間



川沿いの風景を眺めながら休むことのできる京橋川河岸緑地のベンチ



平和記念公園のベンチ

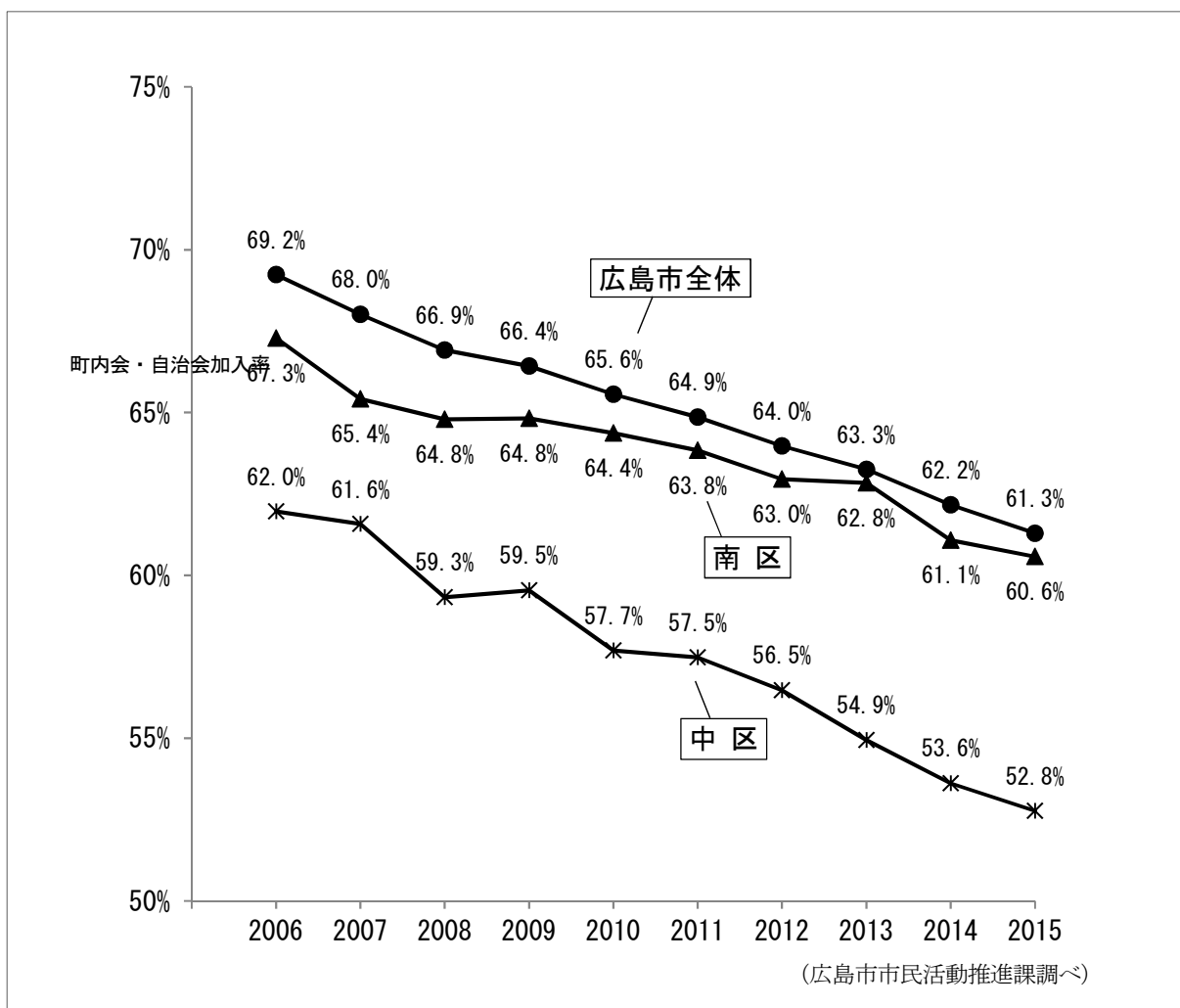


座って休める場所の状況

現状及び課題（視点３：ひとつをつなぐ）

【課題】

- ・にぎわいづくりの担い手となる**地域コミュニティの再生・活性化が必要である。**
- ・いくつかの団体による個別の取組では効果が限定的であることから、**地域団体相互の連携や情報共有を図る仕組みにより、にぎわいづくりの相乗効果を高める必要がある。**



町内会・自治会加入率の推移

Ⅲ 基本的な考え方

前記の現状及び課題の整理結果を踏まえ、基本的な考え方及び現時点で想定される取組イメージについて整理すると、以下のとおりです。

視点	基本的な考え方	主な取組イメージ
1 歴史をつなぐ	○戦災等で途切れて見えなくなった西国街道やその周辺の歴史（まちの記憶）を再発見する。（歴史を知る）	○レストハウスや広島駅の観光案内所の改修に合わせた西国街道の情報発信の充実 ○西国街道の歴史を紹介するリーフレットの作成 ○西国街道の歴史をテーマにした公開講座の開催やまち歩きツアーの充実 など
	○西国街道があった場所を分かりやすく示す。（場所を知る）	○西国街道に特化した観光マップの作成 ○西国街道を示す観光案内サインの設置 ○西国街道の場所を示すステッカー貼付やプレートの設置 など
2 にぎわいをつなぐ	○西国街道周辺地区の観光資源や地区の特性を活かし、にぎわいを生み出す。（核となるにぎわいをつくる）。	○猿猴橋の復元を契機としたにぎわいづくり ○京橋の復元 ○河岸のライトアップによる夜型観光の充実 ○河岸緑地を活用したオープンカフェやイベントなどの取組 ○ゆったりくつろげる休憩施設の整備 など
	○核と核をつなぐ、西国街道の経路のにぎわいづくりに取り組む。（にぎわいの核をつなぐ）。	○統一感のある舗装や街路灯、歩道新設など安全で快適な連続した歩行環境の整備 など
3 ひとをつなぐ	○にぎわいづくりの取組を契機として、地域活動の担い手であるコミュニティの再生・活性化を図る。（ひとを育てる）。	○地域活動の担い手（リーダー）の育成講座の開催 ○組織（商店街組織等）の育成 など
	○地域活動の担い手が、活動しやすい環境をつくる。（活動しやすい環境を整える）。	○地域のまちづくりに関する勉強会への支援 ○西国街道沿道でまちの活性化活動を行う「まちなか西国街道」活性化協議会の設立支援 など

注）にぎわいづくりの視点として、地域関係者へのヒアリングや本市関係課と連携して検討したものであり、道路以外の取組についても幅広く記載しています。また、取組イメージは現時点での想定です。

取組イメージ（視点１：歴史をつなぐ）

（歴史を知る）

- ・ レストハウスや広島駅の観光案内所の改修に合わせた西国街道の情報発信の充実
- ・ 西国街道の歴史を紹介するリーフレットの作成
- ・ 西国街道の歴史をテーマにした公開講座の開催やまち歩きツアーの充実 など

（場所を知る）

- ・ 西国街道に特化した観光マップの作成
- ・ 西国街道を示す観光案内サインの設置
- ・ 西国街道の場所を示すステッカー貼付やプレート設置 など



地元が作成した西国街道の歴史を紹介するリーフレット



観光案内サインの設置イメージ
（出典：国土交通省資料）

取組イメージ（視点２：にぎわいをつなぐ）

（核となるにぎわいをつくる）

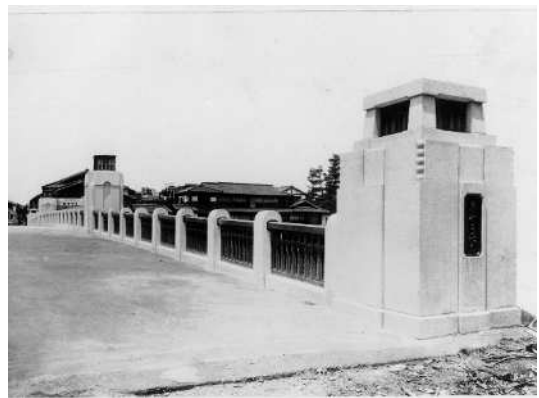
- ・猿猴橋の復元を契機としたにぎわいづくり
- ・京橋の復元
- ・河岸のライトアップによる夜型観光の充実
- ・河岸緑地を活用したオープンカフェやイベントなどの取組
- ・ゆったりくつろげる休憩施設の整備 など

（にぎわいの核をつなぐ）

- ・統一感のある舗装や街路灯、歩道新設など安全で快適な連続した歩行環境の整備 など



猿猴橋の復元を契機としたにぎわいづくり（大正時代の竣工時の姿に復元）



京橋の復元
（昭和初期の竣工時の姿に復元）



京橋川河岸のライトアップ
（平成 27 年 10 月 30 日、11 月 1 日 社会実験）



統一感のある歩行環境の整備（イメージ）

取組イメージ（視点３：ひとをつなぐ）

（ひとを育てる）

- ・ 地域活動の担い手（リーダー）の育成講座の開催
- ・ 組織（商店街組織等）の育成 など

（活動しやすい環境を整える）

- ・ 地域のまちづくりに関する勉強会への支援
- ・ 西国街道沿道でまちの活性化活動を行う「まちなか西国街道」活性化協議会の設立支援 など



まちづくりに関する勉強会（イメージ）



「まちなか西国街道」活性化協議会設立に向けた会議

主な取組イメージ

観光案内所の改修に合わせた
情報発信の充実



レストハウス（平和記念公園）

西国街道の歴史をテーマにしたまち歩きツアーの充実



世界平和記念聖堂



裏木戸、雁木

京橋の復元



猿猴橋の復元を契機とした
にぎわいづくり



観光案内所の改修に合わせた
情報発信の充実
(イメージ)



西国街道を示す観光案内サイ
ンの設置（イメージ）



統一感のある安全で快適な
歩行環境の整備（イメージ）



河岸緑地を活用したにぎわい
づくり



夜型観光の充実



地域のまちづくりに関する勉強会への支援、
「まちなか西国街道」活性化協議会の設立支援



検討の視点

歴史をつなぐ

にぎわいをつなぐ

ひとをつなぐ

取組イメージは現時点での想定であり、確定したものではありません。

Ⅳ 市民意見募集の結果について

募集期間	平成28年7月1日（金）から平成28年8月1日（月）
募集方法	(1) 市ホームページ及び広報紙「ひろしま市民と市政」に募集記事を掲載 (2) 市政記者クラブに情報提供 (3) 閲覧用（案）の設置（道路交通局道路部道路計画課、中・南区役所、公文書館）
応募結果	応募者数 2人、1団体 意見数 9件
意見の概要	・ まちなか西国街道のエリアは商業・住宅・歓楽街・文化施設が混在している。この瓢箪型の地域の回遊性向上に向けて、地域の住民や観光客等の動線を検討してはどうか。 ・ 歩いて楽しい西国街道に向けた取組として、西国街道を示すわかりやすい標識やカラー舗装等の目印を設置してはどうか。 ・ 歩いて楽しい西国街道に向けた取組として、ライトアップや歩道橋の整備をしてはどうか。 ・ 京橋の銘板表記は、東側が「ひらがな」で西側が「漢字」となっている。本来は、京で勉強して帰ってきたら「漢字」が読めるようになったというものであり、逆に取り付けられているのではないか。 ・ 「京橋の復元」をあげているが、京橋は貴重な被爆橋梁であり、復元することで歴史的な橋を破壊することが理解できない。被爆橋梁を保存する方向で「にぎわいづくり」をしてもらいたい。 ・ にぎわい実現のためには、「地元住人や商店主のコミュニティ」「生涯の思い出と感動となる取組」などが必要であるため、地域のコミュニティ活動の活性化や、ひとをつなぐお祭りが必要である。 ・ 数年に一度の広島市民のオリンピックとして、東照宮から平和公園までの「広島御輿行列通りご祭礼」を実施してはどうか。 ・ 道路の問題点として、駅前通り・城南通り等が地域を分断している。お年寄りや車椅子の方も移動しやすくなるよう、立体交差施設（エスカレーター式）等が必要ではないか。 ・ 城下町時代の町名と名前の由來說明文を置き、歩きながら歴史探訪などを楽しむスタンプラリーを実施してはどうか。
本市の考え方	いただいた御意見については、今後の具体的な取組に当たっての参考とさせていただきます。